

造船材を産出した^{おび}飢肥林業と結びつく
「日南かつお一本釣り漁業」
宮崎県日南市

日本農業遺産保全計画
(第2期)

計画期間：令和8年4月～令和13年3月

日本農業遺産日南かつお一本釣り漁業保全推進協議会

令和8年3月

農林水産業システムの概要

認定地域である日南市は、「近海かつお一本釣り」の漁獲量において、31 年連続日本一である。日南かつお一本釣り漁業は、黒潮が日本に接岸する玄関口に当たる日南市を拠点に、日本近海を北上するかつおを船団で追い、漁師が竿で一匹一匹釣り上げていく、ダイナミックな漁業である。かつ、稚魚まで取り尽くす「網」ではなく、かつおの鮮度や痛みを最小限に留め、漁獲効率よりもかつおの資源を守ることを優先した、SDGs（持続可能な開発目標）にも合致する誇りある伝統漁法である。

漁法の確立から 300 年以上が経過するが、その発展は江戸時代に当地域に存在し、造船材に特化した人工造林を行った特殊な飼肥林業と絡み合っ、今日まで地域を支える産業として継承されてきたものである。

（1）食料及び生計の保障

日南市のかつお一本釣り漁業による漁獲量は、全国のかつお漁獲量の約 2 割を占めている。市内総生産額のうち第 1 次産業の割合は宮崎県の 1.9 倍、第 1 次産業のうち水産業の割合は 43%で県の 3.7 倍であり、市の水揚金額の 7 割、漁獲量の 8 割をかつお一本釣り漁業が占めている。漁業従事者は 524 人で、飲食・加工・造船など関連産業も多くあり、かつお一本釣り漁業は申請地域の経済を支える重要な産業である。

（2）生物多様性

市の 8 割を占める森林の 7 割にも及ぶ飼肥杉人工林と、289 種の苔の宝庫である天然林から流れ出る豊富な栄養塩と黒潮から作り出された豊かな海は、漁業者により丁寧に保全され、日南かつお一本釣り船団の最大の母港である目井津港だけでも 150 種を超える魚が水揚げされている。また、江戸時代から植林が続けられている飼肥杉には、品種群として多様な 18 種が存在する。

（3）地域の伝統的な知識システム

当地域のかつお一本釣り漁業は、釣り・魚群探索等の漁法技術が江戸時代から受け継がれており、伝統的な漁具もいまだ手作りされている。漁船や機器の性能は時代に合わせて進化していったが、その技術は船上で人から人へと伝えられてきたものである。また、飼肥林業と現在までも結びつき、整備された森林から流れ出す栄養塩と飼肥杉を、かつおの餌となる小魚の蓄養に欠かせない豊かな沿海づくりや造船などに活用し、伝統漁法による漁獲、船上での技術継承を行うという、山林資源を活用する循環型の漁業システムを形成している。

（4）文化、価値観及び社会組織

当地域がある宮崎県は、日本最古の歴史書である古事記・日本書紀にも地名が多く登場する、日本発祥にまつわる神話の舞台となっている。海幸彦、山幸彦に関する伝承はまさに、かつお一本釣り漁業と飼肥林業の関係を想起させる物語となっている。国の指定名勝である「鵜戸神宮」や漁祈念「恵比寿まつり」など、かつお漁にまつわる神社や祭礼があり、かつお食から派生した独特の甘い醤油文化も存在する。漁業協同組合や宮崎県立高等水産研修所等の社会組織は、当地域のかつお一本釣り漁業を支えており、また、林業者も「漁民の森」活動において協働している。

（5）ランドスケープ

晩秋から春先にかけて、かつお一本釣り漁船が多く停泊する港では、漁港に船首部分が長く突出した特徴的な形状のかつお一本釣り漁船と、港のすぐ側まで植林された飼肥杉林が織りなす風景を見ることができる。また、飼肥杉の人工林は、市全域の景観を特徴付けており、山から切り出された木材を積み出すために江戸時代に整備され、国の登録有形文化財に指定されている堀川運河は、当地域の海と山の結びつきを象徴する風景となっている。

目次

第1	はじめに	・・・1
第2	課題への対応策	・・・2
1	食料及び生計の保障	・・・2
	(1) かつお船の経営安定化	
	(2) 日南かつお一本釣り漁業の価値を消費者に届ける	
2	生物多様性	・・・4
	(1) 森林と漁場の適正な管理保全	
3	地域の伝統的な知識システム	・・・5
	(1) 日南かつお一本釣り漁業の担い手不足の解消	
	(2) かつお資源の管理	
	(3) 400年の歴史を持つ飫肥杉の継承	
4	文化、価値観及び社会組織	・・・8
	(1) 日南かつお一本釣りにまつわる文化の継承	
5	ランドスケープ及びシースケープの特徴	・・・10
	(1) 漁港と飫肥杉林の計画的な維持管理	
6	変化に対するレジリエンス	・・・11
	(1) 航海と森林管理における台風災害への備え	
7	多様な主体の参画	・・・12
	(1) 多様な主体による漁村活力の維持	
8	6次産業化の推進	・・・13
	(1) 加工品の魅力向上と消費の拡大	
第3	モニタリング方法	・・・13
第4	考察	・・・14

第 1 はじめに

認定地域である日南市は、黒潮が日本南岸に接する玄関口に位置し、大小の入江が連続する海岸線には、天然の良港が数多く存在していることから、古くから「近海かつお一本釣り漁業」や「まぐろ延縄漁業」、「磯建網漁業(イセエビ漁)」等が盛んで、特に、「近海かつお一本釣り漁業」は、平成 6 年以來、漁獲量日本一を誇る等、漁業を始め第 1 次産業が盛んな町として発展してきた。

日南近海かつお一本釣り漁業は、春先に黒潮等に乗って繁殖海域である熱帯海域から北上してくるかつおの群れを追い、南は沖縄周辺海域から北は北海道東海域までの近海の漁場で操業している。

一本釣り漁法の特徴として、かつおの群れの 2 割程度と言われる表層を泳ぐかつおのみを漁の対象とするため、水産資源への負荷が小さく、また、かつおの北上に合わせて操業海域に近い漁港への水揚げを行うことで、日持ちし難いかつおを安心して刺身等に利用できる鮮度保持が可能な点があげられる。

世界のかつお漁獲量は魚種別で第 3 位、300 万トンに達しており、漁獲のほとんどは、深さ 250m の網を 1,000m に亘って展張し群れごと漁獲するまき網漁によるものである。

世界のかつお資源評価は、資源枯渇でも過剰漁獲でもないとされているが、各海域において操業方法の規制など資源保護規制が発動している状況にある。

特に、近年になって、日本近海に北上してくるかつおの群れが減少しており、燃油の高騰による操業コストの上昇や、消費者の魚離れによる魚価の低迷等とも相まって、かつお一本釣り漁業の経営は非常に厳しい状況が続いている。

このため、本保全計画に基づき日本一の「日南かつお一本釣り漁業システム」を未来に継承していくことは、国内だけでなく世界に向けてかつお資源の適切な管理を訴えていくうえでも、また、江戸時代から続く伝統的で、かつ、消費者ニーズに合致した鮮度の高いかつおを供給していくうえでも重要である。

日南市の主産業である「かつお」を通した取り組みを進めることで、当地域の活性化や関連産業の発展はもとより、国内外との人的・経済的な交流を深めていくことで、真の地方創生の実現を図る。

第 2 課題への対応策

1 食料及び生計の保障

A 脅威及び課題の分析

(1) かつお船の経営安定化

日南市において、近海かつお一本釣り漁業は、2024（令和 6）年度の漁業生産額が市全体の 70%以上、漁獲量が市全体の 80%以上を占めており、地域産業を支える柱の一つとなっている。近年、日南市の近海かつお一本釣り漁業の平均漁獲量は 19,400 トン、平均水揚げ金額は 65.2 億円で、概ね安定して推移している。

しかし、かつお船隻数については、2015（平成 27）年の 30 隻から現在は 19 隻と、減少傾向にあり、今後の水揚げ金額の低下が懸念されている。かつお船隻数の減少を抑止するためには、かつお船の経営を安定させる取り組みが重要である。

(2) 日南かつお一本釣り漁業の価値を消費者に届ける

かつお一本釣り漁業は、天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用等 SDGs の理念にも合致しているが、世界的に見たかつおを対象とした漁業は大規模まき網漁業優勢で拡大しており、それに伴って冷凍かつおが増加している。2021（令和 3）年の世界全体でのまき網による漁獲量は約 130 万トンであるのに対し、一本釣りによる漁獲量は約 15 万トンであり、低価格な冷凍かつおの増加によって、一本釣りにより漁獲される生鮮かつおの魚価低迷が懸念されている。

このような状況の中で、生鮮かつおの魚価を向上させるとともに消費を拡大していくためには、飲食業等の関連産業との連携も図りながら、日南かつお一本釣り漁業の価値を消費者に届ける取り組みが求められる。

B 脅威及び課題への対応策

(1) かつお船の経営安定化

ア かつお船の経営安定化や存続のための要望活動

漁協、かつお船船主組合、県及び市は、かつおの資源保護や燃油高騰対策等、かつお船の持続的な操業及び経営安定につながる要望活動を行う。

これにより、かつお船の経営安定が図られ、日南かつお一本釣り漁業の継承につながる。

要望活動に係る予算は、漁協、かつお船船主組合、県及び市が確保する。

■目標値：国県等への要望活動 2 回/年



イ 燃油使用量節減の取組による漁業コスト削減

船底にフジツボや海藻等が付着することにより、速度低下や燃油使用量増加など、安全で効率的な操業に影響が出るため、定期的に船底清掃を行うことで船本来の性能を維持している。

これにより、かつお船の主要経費である燃料費削減が図られ、かつお船の経営安定化につながる。

船底清掃に係る費用は、市地域水産業再生委員会が、「ALPS 処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業」を活用して支援する。

■目標値：燃油使用量節減のための船底清掃の実施率 100%/年

(2) 日南かつお一本釣り漁業の価値を消費者に届ける

ア 陸送出荷時の工夫と都市部での P R 活動

漁協は、本地域の港で水揚げしたかつおをトラックで出荷する際、日南産が表記された統一パッチ※に包み出荷するとともに、鮮度保持の取り組みを行う。また、県及び市と連携して、その美味しさを都市部の多くの方々に伝える P R 活動を実施する。加えて、都市部での P R 活動として、かつお加工品の販売やかつお刺身の振る舞いを行う。

これにより、日南かつお一本釣りで漁獲されたかつおの魅力が向上し、魚価向上と消費拡大につながる。

統一パッチや鮮度保持に係る予算は、漁協が確保し、P R に係る予算は、本協議会、市水産振興対策協議会及び県で確保する。

※パッチ：鮮魚出荷時に魚に直接氷が当たらないようにかぶせる透明シート

■目標値：都市部での P R 4 回/年

イ 生鮮かつおを味わうイベント等の開催

漁協及び市は、地元飲食店等と連携し、市公認ご当地グルメ「日南一本釣りカツオ炙り重」の P R や、郷土料理である「かつおめし」等をメインにした料理フェアを開催する。また、プロ野球の春季キャンプや、各漁協が行うかつおまつり等で、かつおの刺身の振る舞いによる P R を行う。

これにより、当地域のかつお一本釣り文化と生鮮かつおの P R を図り、市内外での消費拡大につなげる。

予算は、南郷どれさかな料理フェア実行委員会、日南一本釣りカツオ料理推進協議会、市水産振興対策協議会が確保する。

■目標値：料理フェア開催 2 回/年 かつお炙り重提供数 20,000 食/年
かつお P R 実施 5 回/年

2 生物多様性

A 脅威及び課題の分析

(1) 森林と漁場の適正な管理保全

かつおの餌の蓄養を可能にする沿岸域の豊かさとそれを支える森林の整備は、当地

域のかつお一本釣り漁業に欠かせない要素である。豊かな森林からもたらされる栄養分と黒潮の暖かな流れがぶつかる日南市沖には好漁場が形成され、500 種類を超える魚類が生息している。

また、標高 250～700m 付近まで連続している非常に発達した天然林である猪八重溪谷や市域の大部分を占める飫肥杉人工林を適切に管理することにより林内に生育する動植物の生物多様性が維持されている。漁業者が行う漁場保全活動や、林業者と協働して整備している「漁民の森」は、この豊かさに貢献するものとなっている。

しかし、伐期を迎えている飫肥杉が多く残されていることや、再造林率の低下に伴い、林内の生物多様性、沿岸域の生物多様性の低下が懸念されており、森林と漁場の適正な管理保全が求められる。

B 脅威及び課題への対応策

(1) 森林と漁場の適正な管理保全



ア 森林整備計画に基づく管理の実施

南那珂森林組合、県及び市は、平成 27 年度に日南市が定めた森林整備計画書に基づき、必要な間伐や再造林を推進するとともに、自然条件に応じて複層林化や針広混交林化を推進する。

これにより、豊かな森林の計画的な維持・保全が図られ、飫肥杉遺伝資源（品種群）の保存やそこに生息する動植物の生物多様性が維持される。

推進に係る予算は、南那珂森林組合、県及び市が確保する。

■目標値：再造林面積 700ha

イ 漁民の森の整備

漁協及び漁業者は、これまで主に南那珂森林組合と連携して行ってきた漁民の森（国有林内）の管理について、更に森林管理署とも連携した管理を行うとともに、ボランティア等の参加を促す。

これにより、漁民の森が適切に管理されるとともに、海と森林の関係性を広く後世に伝えることになり、生物多様性の維持・涵養に貢献する。

漁民の森の管理に係る予算は、漁協が確保する。

■目標値：下草刈等作業 2 回/年

ウ 生物の保全活動

漁協、漁業者及び市は、日南海岸サンゴ群集保全協議会と連携し、沿岸の清掃や有害生物となるウニ・オニヒトデ等の駆除を行う。

また、餌肥杉の枝条を利用した魚礁を設置し、水産資源の増殖を行う。加えて、本協議会は、豊かな海を守るための環境学習を実施する。

これにより、漁場・藻場を保全し、近海の生物多様性を維持するとともに、豊かな漁場形成への理解を深める。

沿岸清掃と有害生物駆除に係る予算は、水産庁の水産多面的機能発揮対策事業を活用するほか、日南海岸サンゴ群集保全協議会との連携により確保する。

水産資源の増殖や、学習会の開催に係る予算は、漁協や市、本協議会が確保する。

■目標値：海岸等清掃 2 回/年、有害生物駆除 6 回/年

餌肥杉を利用した水産資源の増殖 4 地区/年

水質環境への理解を深める学習会の開催 5 回/年

魚付き保安林への理解を深める学習会の開催 5 回/年

3 地域の伝統的な知識システム

A 脅威及び課題の分析

(1) 日南かつお一本釣り漁業の担い手不足の解消

日南かつお一本釣り漁業は、江戸時代から 300 年以上続く伝統的漁法であり、釣れる魚群の見極めや効率よくかつおを釣り上げる手法等の伝統的な技術は、船上で人から人へ継承されている。その漁獲は 15 人前後のチームプレーで行われており、船員それぞれが役割を持ち、自身の仕事を確実に遂行することが求められる。

また、かつお一本釣り漁業は、これまでも様々な外的要因により存続の危機が訪れており、国民のライフスタイルの変化による魚食消費の減少、業務・加工用の鮮魚という新しい取引業態への対応、燃油高騰への対応など、時代の変化に伴い、漁業者側の対応能力が求められてきた。

そのため、後継ぎとなる人材や様々な技能を持つ船員の確保が重要である。

(2) かつお資源の管理

江戸時代から続くかつお一本釣り漁では、あえて取り残すことで、かつお資源の保護を図ってきた。

しかし、近年、日本海域へ北上してくるかつおの群れが減少してきており、これは、赤道付近でのまき網による大量漁獲との関係が推察される。

かつおは広範な海域を回遊するため、日南かつお一本釣り漁業を未来へ継承していくためには、世界的な資源管理目標の設定が必要である。

(3) 400年の歴史を持つ餌肥杉の継承

かつお一本釣り漁と同じく、江戸時代から植林が開始された飢肥杉は、近年の主伐期到来にあわせて主伐が進む中、森林所有者の経営意欲低下や後継者不足問題等により、伐採後の再造林が追いついていないという現状がある。飢肥杉の山を再造林し、育てていくためには、植林だけでなく下刈り、枝打ち等含め、機械で担うことが難しい人力を中心とした作業が必要となるが、作業現場が急傾斜地であるなど労働環境が過酷なことから、作業員の確保が非常に厳しい状況である。

飢肥杉の山を守るためには、造林に係る施業の推進が喫緊の課題である。

B 脅威及び課題への対応策

(1) 日南かつお一本釣り漁業の担い手不足の解消

ア 新規就業者の募集・PR

漁協を中心に関係団体が連携を図り、水産高校での就職説明会や就業者フェア等へ参加し、日南かつお一本釣り漁業という職業への理解を深めると同時に、その魅力を発信する。

これにより、かつお一本釣り漁業に興味を持つ人の増加を図り、将来、地元かつお船の主力となる若年就業者の確保につなげる。

説明会開催、フェア等への参加に係る予算は、漁協及び宮崎県漁村活性化推進機構が確保する。

■目標値：水産高校就職説明会 3 回/年、就業者フェア等参加 4 回/年

イ 宮崎県立高等水産研修所における担い手の育成

本地域には、県立の高等水産研修所があり、毎年 6 名程度が入学している。この研修所は、中学校教育や高校教育を終え、これから漁業者を目指す人や、既に漁業に従事している人が、漁業に必要な知識や技術を学び、漁船の運航に必要な各種免許を取得するための研修施設となっており、全国でも 4 か所だけの中核的漁業者養成を行う専門機関である。1 年間のカリキュラムの中には、国内で唯一のかつお一本釣り船での漁業実習もあり、必要な基礎知識と技術を習得することができる。

これにより、かつお一本釣り漁業の即戦力となる担い手が育成され、日南かつお一本釣り漁業の継承につながる。

■目標値：かつお一本釣り漁船への就職者数 4 名/年

ウ 担い手確保

担い手不足が深刻化する中、かつお船が安定して操業するためには、外国人材の活用が不可欠である。漁協、漁業者及び市が連携して、外国人技能実習生や特定技能外国人を受け入れており、それぞれの予算において実技・座学の指導等を行う。



これにより、地元かつお船の維持及び国際貢献が図られ、日南かつお一本釣り漁業の継承につながる。

■目標値：船員（乗組員）の充足率 85%/隻

（2）かつお資源の管理

ア 漁業者が関連団体と行うかつお資源の保全

近年、黒潮に乗り、日本海域に北上してくるかつおの群れが、減少してきていることを漁業者が訴えている。日本近海でのかつおの減少を抑止するため、漁業者は関係団体や政府と共同で資源管理する、コ・マネジメントを行う。

これにより、水産資源の回復が図られるとともに、かつお資源の保全及び世界に向けた資源管理への理解につながる。

■目標値：休漁日 60 日以上/年

イ 世界に向けたかつお資源保全の推進

市内かつお船船主組合等は、WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会）等のかつお資源管理会議へ参加し、日南かつお一本釣り漁業の重要性とかつお資源保全の必要性について理解を求める。

これにより、世界的な資源管理への合意形成が図られ、日本において生鮮用かつおの供給を支えている日南かつお一本釣り漁業の継承に結びつく。

かつお資源管理会議参加に係る予算は、かつお船船主組合等が確保する。

■目標値：かつお資源管理会議等への参加 1 回/年

（3）400年の歴史を持つ飫肥杉の継承

ア 飫肥杉を守り育てる担い手対策の推進

市内造林事業者及び市は、造林作業の省力化・効率化、従事する作業員の労働環境改善及び施業経験を有する労働力を他圏域から融通する取組を行うとともに、令和元年度に創設された新たな森林経営管理制度を推進する。

これにより、再造林の推進や後継者不足、所有者不明森林等の課題解決が図られ、郷土の先人から伝統的に受け継がれてきた飫肥杉 400 年の歴史を後世につなげていく。

予算は、森林環境譲与税を活用する。

■目標値：再造林率（針葉樹主伐面積に対する再造林面積の過去 3 ヶ年平均割合）
75%以上/年

イ 飫肥杉を活用した造船技術の継承

当地域の造船所では、かつては、飫肥杉の特性を生かして木造のかつお船が造られていた。現在でも、船の型枠や補強材などに飫肥杉が使用されており、これまで培われた知恵と技術が、現代に応じた形で継承されている。

これにより、港を中心とした海と山の循環が形成され、日南かつお一本釣り漁業システムが維持されている。

■目標値：造船所における飼肥杉利用量 25 m³/年

4 文化、価値観及び社会組織

A 脅威及び課題の分析

(1) 日南かつお一本釣りにまつわる文化の継承

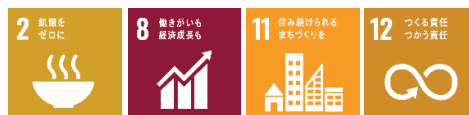
日向神話の海幸彦・山幸彦の伝説の舞台である当地域には、海と山の結びつきを象徴するような神社や漁業にまつわる神楽が存在する。そして、家族的につながる港町の文化と風習、漁師の知恵などが受け継がれているが、人口減少や高齢化が進んでいる。

また、当地域には、かつおの生食により発達したと考えられる甘い醤油をふんだんに用いた食文化が存在するが、若年層の魚食離れにより、「かつおめし」などの伝統食を食べる機会が減少してきている。

日南かつお一本釣り漁業システムを維持していくためには、かつお一本釣り漁師を含め、関係者が協力して、かつお一本釣り文化を後世に継承するための取り組みが必要である。また、その文化とともに、生鮮かつおを積極的にPRし、全国的な消費拡大を図ることが求められる。

B 脅威及び課題への対応策

(1) 日南かつお一本釣りにまつわる文化の継承



A 恵比寿まつりの実施

当地域の漁師たちには、「恵比寿まつり」を終えるまでは出漁しないという風習が残っており、この恵比寿まつりでは魚釣り舞などの神楽が披露される。市内漁協及び漁業者は地域の住民と連携して、恵比寿まつりの実施を支援する。

これにより、地域の伝統文化の継承と漁師の風習が守られる。

■目標値：恵比寿まつりの実施 1 回/年

I 目井津子守船唄の継承

当地域の南郷小学校は、学校行事において、児童たちが、かつお一本釣り漁船を見送る母子の心情を表現した「目井津子守船唄」を歌う場を設ける。

これにより、かつお一本釣りを幼少期から身近に感じながら、その歴史や文化が

継承されていくことにつながる。

■目標値： 学校行事等での継承活動 1 回/年

ウ かつお一本釣り講座等の開催

本協議会は、漁業者等と連携して日南かつお一本釣り漁業や、本地域でかつお一本釣り漁業が発展した背景についての講座を開催し、各種イベント時にもセミナー等を実施する。これにより、日南かつお一本釣り漁業及び海と山の循環システムが広く P R され、その理解も深まる。

講座等の実施に係る予算は、本協議会、かつお一本釣りギャラリー協議会、市水産振興対策協議会が負担する。

■目標値： 一本釣り漁業と餌肥杉のつながりを学ぶセミナーの開催 5 回/年

エ 漁協女性部によるかつお食文化の継承

市内漁協及び市は、市内学校や各種イベント等において、漁協女性部の協力のもと、実際にかつおを捌いて料理を作る料理教室などを実施する。

これにより、消費者が生鮮かつおに接する機会を増やし、かつお生食文化を未来へ継承する。予算は、市水産振興対策協議会及び漁協が確保する。

■目標値：料理教室実施 12 回/年

オ 生鮮かつおを味わうイベント等の開催（再掲）

漁協及び市は、地元飲食店等と連携し、市公認ご当地グルメ「日南一本釣りカツオ炙り重」の P R や、郷土料理である「かつおめし」等をメインにした料理フェアを開催する。また、プロ野球の春季キャンプや、各漁協が行うかつおまつり等で、かつおの刺身の振る舞いによる P R を行う。

これにより、本地域のかつお一本釣り文化と生鮮かつおの P R を図り、市内外での消費拡大につなげる。

予算は、南郷どれさかな料理フェア実行委員会、日南一本釣りカツオ料理推進協議会、市水産振興対策協議会が確保する。

■目標値：料理フェア開催 2 回/年 かつお炙り重提供数 20,000 食/年
かつお P R 実施 5 回/年

5 ランドスケープ及びシースケープの特徴

A 脅威及び課題の分析

(1) 漁港と餌肥杉林の計画的な維持管理

毎年正月、餌肥杉美林を背景に、大漁を祈願し掲げられる大漁旗と正月飾りを施した

かつお一本釣り船が並ぶ港の風景は、本地域の特徴的なランドスケープである。また、植林、間伐、主伐が繰り返され、手入れされた飫肥杉美林の風景は、日南かつお一本釣り漁業と深く結びつく飫肥林業の歴史を間近に感じることのできる風景である。

今後、このような漁港風景や飫肥杉美林の景観を後世に引き継ぐためには、漁業者や林業者のみならず、地域住民が一体となり、漁港や飫肥杉林を計画的に維持管理することが必要である。

B 脅威及び課題への対応策

(1) 漁港と飫肥杉林の計画的な維持管理

A かつお一本釣り船が停泊する漁港風景の維持

漁協及び漁業者は、漁港内の清掃活動を市民参画型で行い、県は漁港の計画的な整備を行う。

これにより、漁労活動に必要不可欠な漁港機能が維持されるとともに、地域住民のかつお一本釣り漁業への理解と愛着が深まり、美しい港にかつお一本釣り船が停泊する昔ながらの景観が保全される。

漁港の整備に係る予算は、国、県及び市が確保し、漁港内の清掃に係る予算は、漁協が確保する。

■目標値：沿岸の清掃活動 5 回/年

I 森林整備計画に基づく管理の実施（再掲）

南那珂森林組合、県及び市は、平成 27 年度に日南市が定めた森林整備計画書に基づき、必要な間伐や再造林を推進するとともに、自然条件に応じて複層林化や針広混交林化を推進する。

これにより、豊かな森林の計画的な維持・保全が図られ、飫肥杉遺伝資源（品種群）の保存やそこに生息する動植物の生物多様性が維持される。

推進に係る予算は、南那珂森林組合、県及び市が確保する。

■目標値：再造林面積 700ha



6 変化に対するレジリエンス

A 脅威及び課題の分析

(1) 航海と森林管理における台風災害への備え

近年増加する豪雨災害により、森林環境、沿岸環境が大きく破壊される懸念があ

る。また、台風についても発生水域が日本に近く、海水温の上昇により強大になる可能性が増している。日南市にも毎年いくつかの台風が上陸または接近するが、漁業においては、船舶や共同利用施設への被害、休漁を強いられ、森林においても山腹崩壊や土砂災害を受けることがある。

このような被害を軽減するためには、台風時の航海安全確保体制の強化や災害に強靱な森林管理が必要となる。

B 脅威及び課題への対応策

(1) 航海と森林管理における台風災害への備え

ア 日南かつお一本釣り船団と無線局の連携による航海安全確保



市内のかつお一本釣り漁船と、油津漁業無線局で組織する宮崎県漁業無線鯉部会を定期的開催し、無線局と日南かつお一本釣り船団との交信ルールや申し合わせ事項の順守などを協議する。

これにより、台風時においても海上における人命財産の保全が図られ、日南かつお一本釣り漁業の継承に貢献する。

■目標値：宮崎県漁業無線鯉部会開催 1 回/年

イ 防災を意識した森林整備

県は、水源涵養のための保安林や災害防備のための保安林について、流域特性に応じ、流木捕捉式治山ダムの設置や、根系等の発達を促す間伐等の森林整備により流木対策を講じる。

このような山地災害による被害を防止・軽減する事前防災・減災の考えに立った治山事業の推進により、災害に強い地域づくりや水源地域の機能強化が図られ、山地から沿岸域までの生物多様性の保全につながる。

予算は、国の交付金等を活用し県及び市が確保する。

■目標値：治山事業施工地区数（累計）2 地区/5 年

7 多様な主体の参画

A 脅威及び課題の分析

(1) 多様な主体による漁村活力の維持

本地域では、かつお一本釣りに関連した漁業・漁村の活性化の取り組みが展開され

る一方、漁船の減少・少子高齢化が進んでおり、漁業を支える漁村の活力を直接的に奪っている。そのため、漁業者やその家族だけで、日南かつお一本釣り漁業を支える漁村の活性化を図ることは、もはや難しい状況となっていることから、地域一体となって漁村の活力を維持する取組が必要となっている。

B 脅威及び課題への対応策



(1) 多様な主体による漁村活力の維持

ア 市民参画によるかつお一本釣り漁業伝承者等の人材育成

本協議会は、かつお一本釣り講座を開催し、日南かつお一本釣り漁業の伝承者となる人材を育成する。

これにより、本地域のかつお一本釣りの価値や、日本農業遺産の取組が市内外の様々な場所で発信され、その歴史や文化的価値の理解を深めることに貢献する。

サポーター等の人材育成に係る予算は、本協議会が確保する。

■目標値：サポーター数の増加（累計）100人/5年

イ かつお一本釣りのまちのブランド化による集客向上

南郷町商工会は、漁業者、地域小規模事業者等と連携し、かつおのまちブランド化に取り組む。

これにより、「かつお」をキーワードに地域全体で意識の共有が図られ、かつお一本釣り漁業を核とした地域の活性化を図る。

予算は、国等の事業を活用するほか、かつお一本釣りギャラリー協議会及び本協議会が確保する。

■目標値：イベント、セミナー等の開催6回/年

ウ 漁協女性部によるかつお食文化の継承（再掲）

漁協及び市は、市内学校や各種イベント等において、漁協女性部の協力のもと、実際にかつおを捌いて料理を作る料理教室などを実施する。

これにより、消費者が生鮮かつおに接する機会を増やし、かつお生食文化を未来へ継承する。予算は、市水産振興対策協議会及び漁協が確保する。

■目標値：料理教室実施12回/年

8 6次産業化の推進

A 脅威及び課題の分析

(1) 加工品の魅力向上と消費の拡大

日南市漁協女性部が運営する「はまっこ」、南郷漁協が運営する「港の駅めいつ」、

外浦漁協が運営する「漁協食堂とのうら」では、一本釣りがつおを含め、地元の水揚げされる水産物の 6 次産業化の拠点となっており、地元水産物の付加価値向上や魚食普及の取り組みを進めている。

6 次産業化をさらに推進するためには、魅力ある加工商品の開発や魅力発信等により、消費の拡大を図ることが必要である。

B 脅威及び課題への対応策

(1) 加工品の魅力向上と消費の拡大



ア かつお加工品の生産増加

漁協及び県と市は連携して、かつおの加工品の研究・開発を行うとともに、かつお加工品の生産量を増加する。

これにより、本地域のかつおの需要が高まり、また、消費者のかつおに対するイメージの向上が図られ、魚価の維持・向上につなげる。

予算は、漁協及び市水産振興対策協議会が確保する。

- 目標値：漁協が運営する販売施設でのかつお加工品売上金額 5%増/年
(令和 3 年度～令和 6 年度平均 11,733 千円との比較)

イ かつお加工品の販路開拓

漁協女性部、港の駅めいつ及び市等が協力し、特に都市部において当地域の一本釣りがつお加工品の P R を行い販売する。

これにより、大消費地において、本地域の一本釣りがつおに対するイメージを向上させ、魚価の維持・向上につなげる。

予算は、漁協及び市水産振興対策協議会が確保する。

- 目標値：加工品販売拡大 P R 5 回/年

第 3 モニタリング方法

年に 1 度、協議会による進捗状況等の確認を行い、総会において報告、各取組の実施スケジュールについて確認を行う。

第 4 考察

漁業を取り巻く環境は一層厳しさを増しており、近海かつお一本釣り漁業においても燃油等のコスト高や魚価低迷による経営悪化、後継者不足等の課題を抱えている。

また、近海かつお一本釣りに関連している産業も同じく、経営における課題が深刻化しており、近海かつお一本釣り漁業の全盛期からすると、現在までに廃業に至った

関連産業は数多く存在する。

このような中、日南かつお一本釣り漁業システムを日本農業遺産として保全することは、その経済的価値や持続可能性を高め、地域住民の愛着や誇りが醸成されるとともに、関連産業を含めた地域全体の活性化につながるものと考えられる。

本保全計画に掲げた各項目が、漁業者はもとより、地域全体で日南かつお一本釣りを未来へ託すためのプロジェクトとのテーマとして効果的に機能することで、日南かつお一本釣り船が恒久的に日本国内に生鮮かつおを提供し、かつおの生食文化が途絶えることのないよう取り組んでいかなければならない。



世界農業遺産・日本農業遺産保全計画 取組一覧

宮崎県日南市

取組	ページ	実施者	実施時期(年度)					指標	
			R8	R9	R10	R11	R12	現状	目標
1 食料及び生計の保障									
(1) かつお船の経営安定化									
ア かつお船の経営安定化や存続のための要望活動	2	◎漁協、漁業者、県、市	←————→					国県等への要望活動2回/年	国県等への要望活動2回/年
イ 燃油使用量節減の取組による漁業コスト削減	3	◎漁協、漁業者、県、市	←————→					燃油使用量節減のための船底清掃の実施率100%/年	燃油使用量節減のための船底清掃の実施率100%/年
(2) 日南かつお一本釣り漁業の価値を消費者に届ける									
ア 陸送出荷時の工夫と都市部でのPR活動	3	◎漁協、県、市	←————→					都市部でのPR5~7回/年	都市部でのPR4回/年
イ 生鮮かつおを味わうイベント等の開催	3	◎漁協、地元飲食店、市	←————→					料理フェア開催2回/年 かつお炙り重提供数平均20,000食/年 かつおPR実施5回/年	料理フェア開催2回/年 かつお炙り重提供数20,000食/年 かつおPR実施5回/年
2 農業生物多様性									
(1) 森林と漁場の適正な管理保全									
ア 森林整備計画に基づく管理の実施	4	◎森林組合、県、市	←————→					再造林面積 年平均214ha	再造林面積(累計)700ha/5年
イ 漁民の森の整備	4	◎漁協、漁業者、森林組合	←————→					下草刈等作業2回/年	下草刈等作業2回/年
ウ 生物の保全活動	5	◎漁協、漁業者、県、市	←————→					海岸等清掃4回/年 有害生物駆除11回/年 餌肥杉を利用した水産資源の増殖4地区/年 水質環境への理解を深める学習会0回/年 魚付き保安林への理解を深める学習会の開催0回/年	海岸等清掃2回/年 有害生物駆除6回/年 餌肥杉を利用した水産資源の増殖4地区/年 水質環境への理解を深める学習会の開催5回/年 魚付き保安林への理解を深める学習会の開催5回/年

3 地域の伝統的な知識システム						
(1) 日南かつお一本釣り漁業の担い手不足の解消						
ア 新規就業者の募集・PR	6	◎漁協、宮崎県漁村活性化推進機構(県)	←→	水産高校就職説明会3回/年 就業者フェア等参加3回/年	水産高校就職説明会3回/年 就業者フェア等参加4回/年	
イ 宮崎県立高等水産研修所における担い手の育成	6	◎県	←→	かつお一本釣り漁船への就職者数 3~4名/年	かつお一本釣り漁船への就職者数4名/年	
ウ 担い手確保	7	◎漁協、漁業者、市	←→	船員(乗組員)の充足率85%/隻	船員(乗組員)の充足率85%/隻	
(2) かつお資源の管理						
ア 漁業者が関連団体と行うかつお資源の保全	7	◎漁業者	←→	休漁日60日以上/年	休漁日60日以上/年	
イ 世界に向けたかつお資源保全の推進	7	◎かつお船主組合	←→	かつお資源管理会議等への参加1回/年	かつお資源管理会議等への参加1回/年	
(3) 400年の歴史を持つ飫肥杉の継承						
ア 飫肥杉を守り育てる担い手対策の推進	7	◎森林組合、県、市	←→	再造林率(針葉樹主伐面積に対する再造林面積の過去3力年平均割合)平均75%/年	再造林率(針葉樹主伐面積に対する再造林面積の過去3力年平均割合)75%以上/年	
イ 飫肥杉を活用した造船技術の継承	8	◎造船所	←→	造船所における飫肥杉利用量25m ³ /年	造船所における飫肥杉利用量25m ³ /年	
4 文化、価値観及び社会組織						
(1) 日南かつお一本釣りにまつわる文化の継承						
ア 恵比寿まつりの実施	8	◎漁業者、漁協	←→	恵比寿まつりの実施1回/年	恵比寿まつりの実施1回/年	
イ 目井津子守船唄の継承	9	◎南郷小学校(市)	←→	学校行事等での継承活動1回/年	学校行事等での継承活動1回/年	
ウ かつお一本釣り講座等の開催	9	◎本協議会、漁業者	←→	一本釣り漁業と飫肥杉のつながりを学ぶセミナー等の開催5回/年	一本釣り漁業と飫肥杉のつながりを学ぶセミナー等の開催5回/年	
エ 漁協女性部によるかつお食文化の継承	9	◎漁協女性部、市	←→	料理教室実施12回/年	料理教室実施12回/年	
オ 生鮮かつおを味わうイベント等の開催(再掲)	9	◎漁協、地元飲食店、市	←→	料理フェア開催2回/年 かつお炙り重提供数平均20,000食/年 かつおPR実施5回/年	料理フェア開催2回/年 かつお炙り重提供数20,000食/年 かつおPR実施5回/年	

5 ランドスケープ及びシースケープの特徴							
(1) 漁港と餌肥杉林の計画的な維持管理							
ア かつお一本釣り船が停泊する漁港風景の維持	10	◎漁協、漁業者	←		→	沿岸の清掃活動5回/年	沿岸の清掃活動5回/年
イ 森林計画に基づく管理の実施(再掲)	10	◎森林組合、県、市	←		→	再造林面積 年平均214ha	再造林面積(累計)700ha/5年
6 変化に対するレジリエンス							
(1) 航海と森林管理における台風災害への備え							
ア 日南かつお一本釣り船団と無線局の連携による航海安全確保	11	◎漁業者、県	←		→	宮崎県漁業無線経部会開催1回/年	宮崎県漁業無線経部会開催1回/年
イ 防災を意識した森林整備	11	◎県	←		→	治山事業施工地区数 0~2地区/年	治山事業施工地区数(累計)2地区/5年
7 多様な主体の参画							
(1) 多様な主体による漁村活力の維持							
ア 市民参画によるかつお一本釣り漁業伝承者等の人材育成	12	◎本協議会、漁業者	←		→	サポーター数の増加(累計)100人/5年	サポーター数の増加(累計)100人/5年
イ かつお一本釣りのまちのブランド化による集客向上	12	◎本協議会、かつお一本釣りギャラリー協議会	←		→	イベント、セミナー等の開催 5~6回/年	イベント、セミナー等の開催6回/年
ウ 漁協女性部によるかつお食文化の継承(再掲)	12	◎漁協女性部、市	←		→	料理教室実施12回/年	料理教室実施12回/年
8 6次産業化の推進							
(1) 加工品の魅力向上と消費の拡大							
ア かつお加工品の生産増加	13	◎漁協	←		→	令和3年度~令和6年度平均 11,733千円	漁協が運営する販売施設でのかつお加工品売上金額5%増/年(令和3年度~令和6年度平均11,733千円との比較)
イ かつお加工品の販路開拓	13	◎漁協、市	←		→	加工品拡大PR5回/年	加工品拡大PR5回/年